

社会調査入門

量的調査と

質的調査

統計的研究と事例研究

- 社会調査には統計的調査と事例的調査がある
- 一般には、
統計的研究（調査）は量的研究（調査）、
事例的研究（調査）は質的研究（調査）、
として分類され、使われることが多い
- この2種類の調査を重ねて行うことによって、
社会の実態の理解に近付ける

推論技法による2つの分類

◎統計的調査

各種相関分析

多変量解析

◎事例的調査

整理・発見技法

KJ法 有機的構造を示す整理法

グラウンデッド・セオリー

コーディングからカテゴリの発見

量的調査1

母集団について統計的に推測することを目的とした標本調査

Survey Research

現象を説明するための仮説をたて、
無作為抽出で標本を選び（サンプリング）、
構造化された調査票を用いて、
原則として数値化された形でデータ収集し、
統計処理を行うことにより仮説を検証し、一般化へ

量的調査2 サンプルリング

- 全数調査（対象者全てを調べる）
＝国勢調査，量的な集落調査など
- 標本調査（対象者の一部を取り出して調べる）
＝多くの世論調査

サンプルリング：調査対象者の集団（母集団）から

実際に調査する標本（サンプル）を取り出すこと

母集団を代表する標本を取りだし，意味のある統計分析を行うためには，無作為抽出（ランダム・サンプルリング）を行うことが重要

行き当たりばったりに街頭や大学内で人を選ぶのは，無作為抽出ではない

量的調査3 データと関心

- データ
 - 観測対象の個体群があり、その群の中で諸個体がとっている値の分布からなるデータ
 - 数値、優・良・可、個人の成績（異なる時点、複数の科目）
 - 世帯・企業・社会
- 関心：複数の個体からなる個体群の全体

質的調査

- 結果を統計量でなく、質的な記述によって表現
- 社会現象の中で一つのまとまりをなす
と考えられるものを想定し、それについて研究すること
- 人類学，社会学のフィールド調査で用いる方法から発展

質的調査の目的と手法

- 目的は、調査対象者の内面を理解し、
現象をより深く記述すること
- 現象の複雑性や多様性を尊重し、
インタビュー、参与観察、ドキュメント法など
の手法を用いる

質的調査の対象

- ◆ 集落調査（対象者全てを調べる）

村落や小集団での参与観察，
集落全員へのインタビュー

- ◆ 参与観察

観察する者が，観察される対象集団の一員と
なって行動しながら，対象集団内で起きている
出来事や人間関係を観察する方法

事例研究 (CASE METHOD)

◆ 対象者の一部を取り出して調べる

特定の事例の調査, 企業調査, 市場調査

例えば, 特定の職業の就労者,

特定の出来事 (災害や戦争) の経験者,

特定の社会集団

(外国人労働者, 趣味のグループ, 高齢者, 学童など)

から一定数の調査協力者を得て, その経験についてインタビュー調査を行う

事例研究2

- 個体群の全体をレベルの異なった一つの個体だとみなせば、一つの事例研究になる
- 日本の社会階層を
統計的データを用いて研究
→ 「現代日本の社会階層」
という一つの個体

事例研究3（個体研究）

- 社会思想史家：一人の思想家
- 経営学者：ある企業
- 行政学者：自治体
- 社会学者：ある農村
- 歴史家：歴史上の人物
- 精神分析家：一人の患者
- 関心：一個の個体

事例研究4

- マリノフスキー 『西太平洋の遠洋航海者』 (1922)
 - ニューギニアのそばのトロブリアンド島の住民を中心として構成される社会空間が一つの個体とみなされている
- ベネディクト 『菊と刀』 (1946)
 - 戦前から戦時中にかけての日本人の生活様式や社会的思考様式が一つの個体として切り取られている。